

# ぴろふいーる

在 住 外国人の数は、2005年末でついに 200 万人を突破しました。今や 100 人の人が集まれば、平均 1.6 人は外国人という時代なのです。そうした中、在 住 外国人は、ことばの壁により、様々な課題に直面しています。中でも困難で専門性が高いとされるのが医療場面のコミュニケーションの問題です。

いくつかの地域では、すでにこの問題を解決すべく、医療通訳システムを確立させようと取組が始まっています。しかし、多くの地域では、通訳の人材がない、見つからない、どうしたら通訳人材を育成できるのかといった声が多く聞かれます。

そこで、今回、医療通訳に関して世界のトップレベルの地域で活躍されている三人の方をお招きし、日本の先駆者とも言えるお二人とともに、医療通訳人材の育成について考えていただく国際シンポジウムを開催します。

## テーマ 「医療通訳トレーニングの現状と今後の方向」

ホームページ [http://www.geocities.jp/mickanagawa/kokusai\\_simpo\\_1.html](http://www.geocities.jp/mickanagawa/kokusai_simpo_1.html)

### 第1部 医療通訳国際シンポジウム (10:30~16:20)

◎基調報告 MICかながわ 西村明夫 プログラム・アドバイザー

◎パネルディスカッション

【コーディネーター】港町診療所内科医 沢田貴志 氏

【パネリスト】

カナダ Language Bureau

ヨランダ・ホブロー (Yolanda Hobrough) 氏

米国 Cross Cultural Health Care Program (CCHCP)

事務局長 イラ・セングプタ (Ira SenGupta) 氏

オーストラリア ニューサウス・ウェールズ州 医療通訳 シカラ正子 氏

在名古屋ブラジル総領事館ブラジル人民委員会 Disqu-Saude

プログラム相談医 中萩エルザ 氏

(通訳) 英語日本語の逐次通訳

### 第2部 医療通訳セミナー・ワークショップ (16:35~18:00)

シンポジウムのパネリストからの提案などを受けて、参加者がグループ別に自ら通訳人材の育成や通訳システムなどについて考え、参加者同士で議論します。

### 第3部 交流会 (18:30~19:30) 名刺交換と飲食、歓談を通じ、顔の見えるネットワークをつくります。

### MICかながわとは・・・?

神奈川県内の日本語を母語としない住民のくらしにかかわる諸問題に取り組むNPO法人です。現在は、主に医療通訳の派遣事業(研修、派遣:10言語、年間約2,000件、調査等)を中心に活動を行っております。

私たちの活動をサポートして下さる会員を募集しています。

詳しくは事務局にお問い合わせいただくか、ホームページをごらんください。



医療通訳養成コースがあるバンクーバー・コミュニティ・カレッジ



医療通訳養成プログラム Bridging the Gap を行うCCHCPのスタッフ



オーストラリア・ニューサウスウェールズ州保健省通訳サービスのランチオフィス

# 医療通訳国際シンポジウム

### MICかながわ プログラム・アドバイザー 西村明夫 氏

神奈川県庁国際課時代に医療通訳派遣システムを構築、(財)自治体国際化協会時代には専門通訳ボランティア研修プログラム等の作成に従事した。現在、本業のかたわら、MICかながわで活動中。『ことばと医療』及び『ことばと医療のベストプラクティス』編著(MICかながわ)。



### 港町診療所 内科医 沢田貴志 氏



横浜にある港町診療所で診療を始めて15年、内科専門医としてこれまで数千人の外国人の診療に携わってきた。シェア=国際保健協力市民の会に参加し外国人のための無料健康相談会を関東5自治体で実施。またフィリピン、タイ、南アなどでの医療協力活動にも関わり開発途上国の医療事情に精通。東京大学などで非常勤講師を勤める。自身の診療経験から医療通訳の育成にも力を入れている。

### カナダ The Language Bureau Partner, Yolanda Salazar Hobrough 氏

コロンビア出身。カナダ及び米国において、認定された会議及び司法通訳・翻訳者(スペイン語)として、また講師として30年のキャリアを誇る。1994-96年にはカナダBC州翻訳通訳者協会の会長を務める。バンクーバー・コミュニティ・カレッジ医療通訳コースのプログラム開発に参画、エクササイズ・マニュアルの作成などに携わった。現在、パートナーと2人で通訳翻訳会社(Language Bureau)を経営。



### 米国 Cross Cultural Health Care Program (CCHCP) 事務局長 Ira SenGupta 氏



文化やことば(英語)の面で障害がある人々をエンパワーメントするプログラムを開発し、米国で年間3000時間以上もの講義をおこなっている。保健社会福祉省(HHS)向けの「文化言語適正サービス(CLAS)」のベストプラクティス策定の主要メンバーであった。また、米国で有名な医療通訳者の養成プログラムである Bridging the Gap の製作メンバーでもあり、自身もトレーナーである。

### オーストラリア・ニューサウスウェールズ州 医療通訳 シカラ正子 氏

1994年にオーストラリア国家翻訳通訳認定機関(NAATI)認定資格取得以来、ニューサウスウェールズ州保健省の傘下で各地域医療サービス医療通訳事務所が派遣する通訳者として、シドニー周辺全域での通訳はもとより、オーストラリア移民局等、その他様々な分野での通訳翻訳業務もこなしている。



### 在名古屋ブラジル総領事館ブラジル人民委員会Disque-Saude プログラム相談医 中萩エルザ 氏



ブラジル人日系二世、臨床検査師、医師。日本在住20年。在名古屋ブラジル総領事館ブラジル人民委員会Disque-Saude(ディスケ・サウデ)プログラム、「多文化共生センター・ひょうご」、大阪府健康福祉部地域保健福祉室疾病対策課、CRIATIVOS(HIV/AIDS支援団体)などで、医療相談医、医療通訳、カウンセラーを勤める。在住外国人医療・医療通訳講座講師、講演活動を行う。

カナダ、米国、オーストラリアの医療通訳事情は『ことばと医療のベストプラクティス』(MICかながわ発行、1,500円)に掲載されていますので、事前にお読みいただくことをおすすめします。

『医療通訳を考える全国会議2006開催報告書』を好評発売中。MICかながわ発行、1,500円。